

酒とパソコンと少々ミルク

反省がまだ足りない

成光 昭男

昨年の春に腰を痛めて、この欄でも運動不足を反省し、予防が大切などと偉そうに書いていましたが、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」で、運動不足は解消されぬままに1年近く経過した日曜日の早朝、魔女は再び我が腰に一撃を与えてくれた。

日曜日には道の駅にお客様が多く来られるので、我が農園としても気合を入れて野菜の収穫を行うのだが、このことが事態をさらに悪化させた。

ビニールハウスでアイスプラントの収穫が7割程終わったところで、一撃。「まずい！」と思い、作業を中止した。この時のダメージはあまり大きくなかったのか、しばらく安静にしていたら、痛みはほとんど無くなり、一安心。

しかし、稼ぎ時の日曜日に、あと3割のアイスプラントを収穫しないのは勿体ない。骨盤ベルトを締めて、再びハウスへ。これがいけませんでした。欲です。この欲がいけません。再びの「魔女の一撃」はかなりの衝撃、撃沈でした。

自業自得である。それだけではない。今回は重傷で、整骨院での赤外線治療を続けながら、日に日に快復したものの、通常生活への復帰までに7日も掛かってしまった。この間、いくつのお約束をキャンセルさせて頂いたご在宅勤務となってしまう、関係者に大変ご迷惑をお掛けしました。この場をお借りして、深くお詫び申し上げます。

アイスプラントの収穫作業は難しいものではないが、ちょっとしたコツがある。マニュアルでは「わき芽をハサミなどで収穫する。」と表現されているが、ちょっと違う。文章で表現することは難しいが、取りすぎるとわき芽が減ってしまうし、取り方が少ないと、繁茂しすぎてしまうので、草の状況を見ながら切り方を調製する必要がある。

腰を曲げることが困難であるため、私には収穫できないので、妻に収穫を任せることになったのだが、妻はアイスプラントの収穫法を知らない。切れば良いことは知っていても、どこを切

るのか、どのくらい切るのか、見当が付かないのだ。

結局、痛い腰をさすりながら、指し棒を手に、切る位置を指示することに。

アイスプラントの収穫は夜明けとともにはじめ、道の駅への搬入は10時までとされているので、慌ただしい。二人三脚での収穫作業では思うようにはかどらないが、仕方がない。

腰に関しては反省が足りなかったが、今回のことから、もう一つ反省しなければならないことに気が付いた。我が農園の作業手順の「見える化」が全く進んでいないのだ。いわゆる作業手順書だが、単に文章で作成した作業手順書では実際の作業ではわかりにくいことが多い。そこで、わかりやすくするために写真や図を組み込み、誰が見てもわかりやすい作業手順書を作っておくべきであった。

作業者によって作業にバラツキがあれば、作物の生育や品質にもバラツキが生じる。作業の種類によっては、事故につながることもある。安全で美味しい野菜をお客様に届けるためには、誰でも同じ作業ができた方がよい、自分たち作業者にとっても安心だ。これが作業の標準化で、経営改善にとって欠くことができないものではないだろうか。

作業の標準化のためには、まず①作業の現状を分析し、問題が生じる可能性のあるポイントを探す。この段階で、すでに問題が発生している場合もあるので、その場合は改善案を考える。

続いて、②作業手順書を作成するが、これには実際に作業に従事している複数の人が参画した方がよい。つまり、我が家の場合は私と妻との共同作業で作成することになる。

アイスプラントの収穫作業の作業手順書はA4用紙裏表あれば十分表現できるだろう。これをラミネートし、ハウスとパック詰めする作業所にぶら下げておく。

ぎっくり腰になったのは、とんでもなく不幸なことであったが、お陰で経営改善へのヒントを得ることができたので良しとしましょうか。